

環境としての社会

※ 浅野慎一『人間的自然と社会環境』大学教育出版 2005年

第I部 人間環境と自然・社会

第7章 環境としての社会

《克服すべき「常識」》

環境とは、自然のことだ。環境問題とは自然環境の破壊や保全の問題を指す。

【1. 「環境＝自然」という“常識”】

「環境＝自然（自然環境）」という“常識”。

ex) 環境問題、環境保護運動、環境社会学・環境経済学・環境倫理学・環境法学。

= 「人間 VS 自然」、「社会 VS 自然」の二分法を前提。【環境外在論】の残滓。

* 【環境外在論】：環境＝主体をとりまく外界・外的対象。

BUT 人間が認識する自然＝社会的。（≠自然と社会の二分法）。

人間＝自然の一部。人間が認識する自然＝人間的自然。（≠人間と自然の二分法）。

【主体－環境系論】：「人間と自然」・「主体と環境」＝切り離せない意味連関の過程。

「主体形成（人間発達）－環境形成」の動的過程として把握する視座。

環境＝主体（人間）にとって意味ある事象の総和。（≠外界・外的諸条件・外的対象）。

∴ 環境：自然＋ 社会・文化（政治・法・経済・社会・文化・記号・情報・教育・芸術等）

社会・文化的な諸関係・諸過程＝人間にとって最も身近で直接的な環境の一部。

社会：自然以上に人間によって直接に作り出された環境。

主体との相互作用を集約的に表現する環境の一部。

人間にとっての環境の一部。 ∴ 自然と切り離せない。

人間自身を含む自然への働きかけ（開発・生産・労働等）：社会のあり方を根底から規定。

∴ 社会：生物種としての「人間」の社会。

労働・生産様式（生産力・生産関係、封建制、資本主義、奴隷制等）によって規定。

「環境権」：「環境を自然環境に限定せず、人間生活と切り離せないもの」。

ex) 公害反対運動、環境保護運動、自然保護運動、文化財保護・町並み保存運動の接点・類似点。

ex) 1) 個人の生命、身体の安全、健康の保障、 2) 人間にふさわしい自然環境の保全、

3) 公衆衛生や社会福祉等の社会環境の整備、 4) 歴史的遺産等の文化環境の保存。

【2. 社会問題としての自然環境破壊】

自然環境の破壊・保全：社会問題。

自然環境破壊←利潤増殖を至上目的とする資本主義的生産様式 & 大量消費型生活様式。

自然環境保全：「先進（中核）」諸国と「途上（周辺）」諸国等の意見対立。

企業活動における環境保全・管理のグローバル・スタンダード化

= 「先進（中核）」諸国の市民生活維持 & 巨大資本の利潤増殖・寡占強化の論理。

「途上（周辺）諸国：政府・資本 VS 環境破壊の被害者（地域住民）との意見対立。
環境保全の技術開発・普及：経済的採算、法的規制、世論・社会運動の圧力。

内なる自然環境：社会問題

- ex) エボラ出血熱、H I V、新型コロナ、新たな耐性菌の出現、
←利潤増殖を至上目的とする開発、抗生物質の濫用、グローバルな人口移動、
貧困を背景とする売買春、保健衛生機構・行政、医療システム・官僚制、製薬企業の利害等。
ペスト・コレラ・梅毒←植民地支配・植民地貿易
アレルギー←「先進（中核）」諸国の社会環境。
狂牛病（BSE）←飼料（肉骨粉）の市場価格・リサイクル、煮沸用の原油価格・中東戦争。
行政機関の認識、飼料製造・投与の規制・禁止の時期・程度。

【3. 転換期の現代社会環境】

現代社会環境：巨大な転換期。人類の危機。「地球的問題群（global problematique）」。

- ex) 核戦争・核汚染、自然環境破壊、グローバルな格差・貧困、社会解体・人間疎外、
排他的ナショナリズム・リージョナリズム

地球的問題群：個別問題間 & 個別問題内部で、相互に複雑に連関。

∴ 個別問題に視野限定した解決の営み→「意図せざる結果」の発生。

- ex) 電気自動車→電力消費の飛躍的増大、大型電池の大量廃棄。
各種リサイクル→電力消費の増大、土壌・水質汚染。
重金属汚染土壌の生物による浄化→食物連鎖による汚染拡散。

ライフ・サイクル・アセスメント（原料調達～製品廃棄・処理）の限界。

質的に多様な環境負荷：量的基準で比較・評価は不可能。

未知（または意図的に視野の外におかれる）の環境負荷＝想定から除外。

【4. 解決の方法と主体】

一見、人類に共通の普遍的環境問題：

他の諸問題と切り離し、普遍的な「全人类的価値」に基づく個別的解決は困難。

地球的問題群の相互連関：個別分野での変化→他分野にも変化・インパクト。

包括的視野の中で個別課題の解決に取り組む主体・知のネットワーク。

“think globally, act locally”

地球的問題群の解決：国家の枠を超えた世界市民・「類」としての成熟。（≠国民国家）。

実質的なグローバル社会の生成。国民国家の揺らぎ。

「国民主権（排他的）」と「基本的人権（普遍的）」の軋み・対立。

ポスト・コロニアリズムのディアスポラの主体形成。

【5. 現代資本主義・グローバリゼーションと地球的問題群】

地球的問題群：現代世界資本主義—多国籍化した巨大資本の利潤増殖活動—を共通の土台。

人类的危機：巨大資本の利潤増殖という観点においてのみ、「合理的」かつ「必要」。

実質的なグローバル社会形成の最大の推進力：巨大資本の世界大での利潤増殖活動。

∴ 地球的問題群の解決：資本主義的な生産・開発様式に踏み込んだ変革が不可欠。（≠生活様式の見直し）
ex) 世界社会フォーラム：反グローバリズム（資本批判）のグローバルな市民運動。

& 民主的国家による多国籍企業の規制

民主的国家＝地球的問題群の根底的解決。多国籍巨大企業の利潤増殖活動と対峙、基本的人権を人類の規模で実現。（≠特定の国益・国民利益を代表する国民主権の国家）。

国民主権と人類の普遍的目標の矛盾に耐えられる国家。

ex) 日本国憲法の平和主義。非武装。

「国民国家＝日本」の安全・利益を「武力による平和の拒否」という世界的普遍的価値に従属。

平和の担保：“the peace-loving peoples of the world”（≠国民主権・平和を希求する国家）

「国権の発動たる戦争」や「国の交戦権」を否定。（≠国家以外の主体による武力を含む抵抗）。

国家としての矛盾・限界の超越、人権としての平和的生存権の模索。

【6.まとめ】

《克服すべき「常識」》

環境とは、自然のことだ。環境問題とは自然環境の破壊や保全の問題指す。

NO! 環境＝人間（主体）にとって意味ある事象の総和。

& 自然環境破壊・保全＝社会的な人間による／人間にとっての社会的な問題・課題。

「自然と人間／自然と社会」の二元論＝無意味。

現代の社会環境：巨大な転換期。「地球的問題群(global problematique)」。

ex) 核汚染、自然環境破壊、経済格差・貧困、社会解体・人間疎外、

排他的ナショナリズム・リージョナリズム

& 「地球的問題群」：相互に密接に関連。個別の解決は不可能。

現代世界資本主義(多国籍化した巨大資本の利潤追求の営為)を共通の土台。

∴ 現実的な自然環境保全とは？

1) 社会（政治・経済・市民社会）に関する洞察・知見。（≠自然・技術に視野を限定）。

2) 資本主義的生産様式（利潤増殖）の変更を前提。（≠生活・消費様式の変更に視野を限定）。

3) 国民国家（国民主権・国益追求）の排他性の克服を前提。（≠国民国家の正当性に視野を限定）。